

●新会員代表者紹介 前田 徹生



桃山学院大学学長

明石吉三前学長の病氣辞任を受け、九月一日付で前田新学長が就任した。桃山学院大学は「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民として広く国際的に活躍しうる人材の養成」を教育理念に掲げ、新学長のもとで、教職員知恵を集めての「魅力的な大学づくり」に向け新たなスタートを切った。

前田新学長は、一九四七年東京、高

尾山麓生まれ。一九七〇年上智大学法学部卒業、一九七三年上智大学大学院法学研究科修士課程修了、一九七五年上智大学大学院博士課程在学中にミューンヘン大学政治公法研究所に留学。一九七九年上智大学大学院法学研究科博士課程を単位取得退学後、桃山学院大学経済学部助教就任。一九九三年教授就任。二〇〇二年改組により桃山学院大学法学部教授。二〇〇四年法学部長、二〇〇九年ふたたび法学部長、二〇一〇年桃山学院理事、二〇一三年学長に就任した。この間、一九八六年と一九九五年の二度にわたり、ドイツ・マックス・プランク国際社会法研究所に客員研究員として在外研究。研究分野は、憲法学、特に社会権、経済的自由権の違憲審査論を主要なテーマとしている。主要著書・論文には、『日本国憲法の理論』（共著、有斐閣）、『現代憲法の理論と現実』（共著、青林書院）などがある。主要所属学会は、日本公法学会、比較法学会、日本財政法学会、比較憲法学会等。

趣味は、釣り、水泳、カヌーと、「風」「水」大好きのアウトドア派。カヌーでカナダ極北のユーコン川を二度漕波。

●新会員代表者紹介 錦織 一郎



大阪女学院理事長

学校法人大阪女学院は、五月の理事会において、新理事の選任と同時に、錦織一郎を理事長に選任し、新役員体制による運営を開始した。二九年来にわたって多くの先輩が積み重ね、築いてきた女子教育の理念と歴史、四五年間の高等教育機関としての業を継承し、社会と隣人から望まれる教育研究機関に向かう歩みを始めている。

錦織新理事長は一九五一年生まれ。

関西学院大学社会学部を卒業、一九七四年に大阪キリスト教青年会（大阪YMCA）に奉職、青少年を中心とした社会教育分野での指導、ボランティアの育成に関わる。一九九八年に総主事に就任し、YMCAの学校法人、財団法人、社会福祉法人の常務理事として、法人運営の責務を担当する。総主事の任期満了に伴い、二〇〇八年に大阪女学院に籍を移し、二〇〇九年六月に副理事長に就任、本年六月より現職。

長年にわたり、野外教育活動を通して大阪府下の青少年に仕えてきたことから、大阪府キャンプ協会会長、日本キャンプ協会理事、各種の青少年団体及び国際交流団体の役員を歴任している。

新理事長は、学校運営が厳しさを増す中で、キリスト教主義学校としての建学理念を守り抜くことに責任を果たすことと同時に、キリスト教に基づく人間関係のあり方を「重荷を担い合う」「こととして、学生・生徒を支える人々と共に、重荷を担い合う関わりの中で、生き、生かされていることに気づき、学び、響き合うことを望み、伝えようとしている。

●新会員代表者紹介 梅村 清英



梅村学園理事長

小川英次前理事長の任期満了に伴い、十月一日付で就任した。任期は四年。梅村学園は今年創立九〇周年、中核の中京大学は来年開学六〇周年を迎える節目の時期での第四代理事長就任。中京大学長期計画「NEXT10」の着実に実行に意欲を示す。

一九六九年四月名古屋生まれ。四四歳。中京大学経済学部第一期生。大学院経済学研究科修士課程、博士課程と進み、二〇〇五年に博士（経済学）

の学位を取得した。一九九六年に経済学部講師、二〇〇六年に教授。その後、経済学部長、大学院経済学研究科長をいずれも二年間務めた。学部生四年、大学院生五年、教員一八年目で、この間、梅村学園の評議員、理事を歴任するなど、本学及び学園「筋の歩み」。

「NEXT10」は策定委員会委員長として、とりまとめに尽力した。その根本は、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」にある。「しなやかに挑み続ける新生・中京大学」は「自ら考え、行動する知識人を育成」する。「教育力と研究力のさらなる充実により、世代を超えたChukyoアイデンティティの確立を目指す」と語る。

専門分野は国際貿易論で、主な著作に『現代貿易理論の潮流』（共著）、『国際貿易の理論と開発政策』（中京大学経済学研究叢書）。

中京大学同窓会名誉顧問、体育会アメリカンフットボール部顧問。中部経済同友会幹事、愛知県経営者協会理事、財団法人愛知県私学退職基金財団評議員、愛知県警察官友の会理事などの公職にもある。

●新学長紹介 馬場 明道



兵庫医科大学学長

松田暉前学長の任期満了に伴い、四月一日付で馬場明道副学長が学長に就任した。

馬場明道新学長は一九四六年岡山県生まれ。大阪大学薬学部卒、一九七四年同大学院薬学研究科博士課程を修了。引き続き同学部助手、助教授を経て、一九九一年教授。この間、米国イェール大学医学部に留学。大学院薬学研究科長・薬学部長、国立大学法人大阪大学理事・副学長を経て、二〇一〇年定年退職。同年兵庫医科大学副学長・薬学部教授、二〇一三年同学長に就任。

この間、日本学術会議連携会員、日本薬理学会理事長、日本薬学会副会頭などを歴任。専門は神経薬理学で、二〇〇七年、日本薬学会賞を受賞。

兵庫医科大学は昨年開学四〇年を迎えた兵庫医科大学の兄弟校として、二〇〇七年に神戸ポートアイランドに開学した。現在、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科）、大学院看護学研究科、医療科学研究科（ともに博士前期課程）、薬学研究科（博士後期課程）を擁している。

本学では、兵庫医科大学の建学の精神を礎に、「幅広い知識と豊かな人間性をもち、社会とともに医療を担う医療専門職者を育成する」ことを理念に掲げ、具体の四つの教育目標を定めている。「チーム医療教育」を「ボーダレスな教育環境」のもてで行うことを教育の大きな特徴としている。兵庫医科大学医学部と本学の三学部の混成で行う一〜四年次のチーム医療教育は、異なる医療職者を目指す四学部学生の相互理解において大きな意味をもつものであり、昨年度の大学基準協会の認証評価においても高く評価された。

連盟二ニュース

●平成二十五年秋の叙勲(連盟関係者)
旭日中経章

松澤貝子(神戸女学院元理事長)

瑞宝中経章

鮑戸 弘(東洋英和女学院大学名誉教授、元学長)

石田重森(福岡大学元学長)

石塚博司(早稲田大学名誉教授)

伊藤 洋(早稲田大学名誉教授)

鈴木多加史(追手門学院大学元学長)

村上隆太(西南学院大学名誉教授、元学長)

瑞宝小経章

平山善吉(日本大学名誉教授)

●平成二十五年年度「国の補助金等に
関する協議会」開催

平成二十五年九月十七日(火) アルカディア市ヶ谷において「国の補助金等に関する協議会」を開催した。九一の加盟大学より一八三名の教職員が参加し、文部科学省より文部科学省概算要求についての説明、私立大学をめぐる状況及び今後の動向などの報告が行われ、意義深い協議会となった。

『大学時報』は、PDF版を無料で閲覧できます。
<http://www.shidaiaren.or.jp/activities/daisaikunhou>

編集後記

□やや古い話、今年の一月のことだが、ミュージカル「タディ・ロング・レグズ」を見た。原作は言わずと知れた「足ながおじさん」。主人公ジル・シヤは孤児院で育つが、匿名のスポンサーから奨学金を得て高等教育を受けるチャンスをつかむ。意欲と個性にあふれたジル・シヤは、落ち込んだりしつとも充実した学生生活を送り、才能を開花させていく。いくらく読まれていた名作とはいえず、さわやかな結末には触れないでおく。

現実には、奨学金を受けても、誰もがジル・シヤのようにうまくいくわけではない。しかし、ついわれわれは彼女のサクセスストーリーのようなロマンを、奨学金に求めすぎではないのだろうか。なにしろ大学で奨学金を担当している私でさえ、ジル・シヤに魅せられたくらいなのだ。今号の特集では、さまざまなお立場から奨学金の現実を記していた。現実にはジル・シヤは少なくとも、奨学金の社会的使命はある。

(広報・情報部門会議(大学時報))

委員・立教大学学生部学生厚生課
木村 健太

□銃を肩に雨の中を行進する学生たち——出陣学徒壮行会が開かれたのは七〇年前の一〇月二十一日。くしくも、私の勤務校の創立記念日でもある。本学でも判明分だけで約四三〇〇名の学生・教職員・卒業生が、戦闘、空襲などで命を落としている。

一九九〇年には構内に平和記念碑を建立してその名簿を納め、毎年のホームカミングデーには総長ほか関係者が献花。昨年は岸本氏の原稿にもある松井栄造の、今年は別の学徒五名を取り上げた企画展も実施した。学業半ばで、ついに学苑に戻ることは節目の年ということで、催しや報道なども多かったが、次代を担う後輩たちにとだけ伝わったのか。残った「学徒」たちもすでに高齢である。語り継ぎ鎮魂の祈りをささげるとともに、教育研究を通して、世界の平和と安寧に資する成果と人材を生み出していくことが大学の使命であると、あらためて心したい。(広報・情報部門会議(大学時報))

委員・早稲田大学広報室広報課 月田 陽子

□ただ健康であることが一番のせい

たくであり、幸せであるということに、病気になるたび気づかされる。そんな経験はないだろうか。「平和」も同じことかもしれない。平和であることが日常である私たち戦争を知らない子どもたち第二・第三世代にとって、戦争は遠い過去の出来事。ずっと昔から平和が確立されていたかのような錯覚を起こしている。今号の小特集は「今、大学は『平和』にどう取り組むか——学徒出陣七〇年の節目に」。今年は、平和の祭典とも言われるオリンピック・パラリンピックが二〇二〇年に東京で開催されることとが決定した年でもある。普段はあまり考えることのない平和について、この機会に深く考える時間をもってみてはどうだろうか。

インタビュは、古美術商で西洋アンティーク評論家として活躍の岩崎絃昌氏。アンティーク一筋でこの道へ進まれたのかと思いきや、学生時代にさまざまな経験を積んだことが今につながっているという。最近、就職が決まらないことで人生の終わりと悲観する学生が多いようだが、横道にそれた方がいい、先輩たちの背中を見てたくさんチャレンジしてほしい。(日本私立大学連盟事務局 春名 貴明)

4. 同一学校法人

(124大学 平成25年11月20日現在)

[illegible]

大學時報 11月号

第62卷353号（通卷367号）
平成25年11月20日発行

編集人 音 好 宏 (上智大学文学部教授)

發行人 仙波 憲一 (青山学院大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
私学会館別館

電話 03-3262-4362 FAX 03-3262-4363

印刷所 凸版印刷株式会社

〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3

小林直毅	(法政大学社会学部教授)
大日方聖信	(上智大学学術情報局長)
大川圭弘	(関西大学広報課長)
筒井弘幸	(関西学院大学入試部課長補佐)
赤井完爾	(慶應義塾大学法学部教授)
高見勉	(南山大学情報理工学部教授)
兼高聖雄	(日本芸術学部教授)
大村智太	(立教大学学生社会学部生体生課)
大場茂生	(立命館大学総合企画部広報課長)
田陽子	(早稲田大学広報室広報課主任)
春貴	(日本私立大学連盟事務局)

